

新たな Shared Decision Making 支援ツールの開発

櫻田 勉*

2018 年の診療報酬改定では末期腎不全患者に対する腎代替療法選択における協働的意思決定（Shared Decision Making；SDM）の重要性が認められ、腎代替療法実績加算が新設された。これは国が在宅医療つまり腹膜透析を推進することを示しただけでなく、患者の（知る）権利を十分に保障しなければならないということを意識したものである。

SDM については 2010 年にオーストリアで開催されたザルツブルク・グローバルセミナーでも取り上げられ、SDM を推進するためにどのように医師と患者が協力できるかについて話し合われ、声明文が作成された¹⁾。この声明文では五つのキーワードが挙げられており、そのなかには SDM を支援するための患者と家族へのリソースの提供が含まれている。オーストラリア・ニュージーランドでは「My Kidneys, My Choice」、英国では「Yorkshire Dialysis Decision Aid (YoDDA)」²⁾、米国では「My Life, My Dialysis Choice」や MATCH-D³⁾、カナダでは「Kidney Failure：What Type of Dialysis Should I Have?」などのパンフレットや website が SDM に用いられている。また、これらの SDM 支援ツールの一部では医師、患者あるいは家族に対するアンケート調査でその有用性が明らかにされている。これに対して本邦では各学会の協力で作成された「腎不全治療選択とその実際」が用いられているか、あるいは各施

* 聖マリアンナ医科大学病院腎臓・高血圧内科

設で作成したオリジナルの冊子・スライドを使用していると思われる。しかし、患者の価値観やライフスタイルに着目した内容ではなく、あくまで各々の治療の原理および利点と欠点に重きがおかれているのではないだろうか。

欧米の SDM 支援ツールでは医学用語を極力少なくすることが意識されており、在宅血液透析や透析を導入せず緩和ケアを中心とした医療を提供する **Conservative Kidney Management** に関する記述も含めている。今後、本邦においても新たな SDM 支援ツールの開発を行うことで、患者や家族にわかりやすく、そしてだれもが同じように SDM を実践できるようになることが望まれる。また、2017 年 11 月に腎臓病 SDM 推進協会が設立されたことにより、さらに **Patient-Centered Medicine** が浸透していくことを期待したい。

文 献

- 1) Johansson, L. : Shared decision making and patient involvement in choosing home therapies. *J. Ren. Care* 2013 ; 39 (Suppl. 1) : 9-15